

防災訓練説明会

例年行っている防災訓練の説明会が、飯山満公民館で開催されました。今年は公民館の都合で8月7日になってしまい、フィールドデーコンテストとぶつかってご迷惑をお掛けしましたが、多数の会員にお集まり頂きました。

今年は通信訓練は、より実際に近い形に改められ、通信マニュアルも有事の場合の対応について、より具体的な内容に改められました。特に変わったのは通信票の扱いについてで、避難所の場合従来は担当局が自書し、班長の了解を得て送信していましたが、今回からは班長から内容が記入された通信票を渡され、受け取ったものをそのまま送信する形になったことと、単なる連絡通信では通信票を使わないで良くなったことです。

これは行政でも今後は通信票を用いて、記録を残すことになった結果で、一つの進歩と言えるでしょう。

また、各避難所に対しての基本配置案の説明があり、今回訓練の配置については、各地区毎に分かれて話し合いが持たれました。

説明会や訓練に参加出来なかった方には後日資料を郵送にてお届けしましたが、改定版の「災害通信2005」は実際の災害時の基本行動が示されています。内容を精読して無くさぬ様大切に保管して下さい。

船橋市総合防災訓練報告

平成17年度船橋市総合防災訓練は8月28日(日)に、市内の小学校55校と、中学校1校とで連絡会は約半数のメンバーが参加して充実した内容で実施されました。

当日は雨も降らず照りもしない絶好の天気で、各自治会の皆さんの出足も大変良かった様です。

連絡会は消防センター4階に本部統制局と南部地区本部を、東部、中部、西部、北部は各消防署に地区本部を設置、小学校避難所には市民の参加が多いところを重点的に、張り付けていただきました。

今年から我々非常通信協力局も、開会式で市民の皆さんに班長さんから紹介され、認知度も上がったと思います。

説明会の記事にもある様に今年の訓練は更に一歩進んだ形で行われましたが、その一方色々なトラブルも多かった様です。特に班長さんが通信票の新しい扱いに不慣れだったことや、タイム・スケジュールが実情に合わないなどで混乱を招いた面もありました。これらの事柄は訓練の後で行われた反省会で、長時間に亘り討議され次回に向けての課題として検討して行きます。当日の参加局はYUX6局、YNA47局(下記)、他に見学が3局でした。

JO1GLR, JF1ONQ, 7N1TWH, JR1BDE, 7K2CMU, JA1W0I, 7K1EYD, 7K2MZG, JA1EDJ, JH1TVY, JK1FEM, JA1BWA, JM1HVL, JN1XAB
7L3UQW, JA1VRZ, JS1IWA, JA1CVG, 7M4NBV, JK1PIK, JA6AZE, JA1TRM, JH1MQC, JG1ROP, JA1QC, JA1OQX, JH1GEN, JS1WGD,
JM1MUA, JH1AMH, JL1GYB, JG1EDX, JN1KPB, 7M2EAI, JL1CKY, 7N4WOU, JH1APY, 7M2AWK, JN1QKR, 7L1TTH, 7L2NWB, JE1FTN,
JF6FET, JL1FJB, JE3E00, JG1DVY.

防災訓練反省会

8月28日の防災訓練終了後、飯山満公民館にて訓練反省会が行われ、YNA30局、YUX4局の方々が参加されました。

全体の評価としては、それなりに成果が上がった、自作自演でなくルールに従う習慣が芽生えた、などの声が出る一方、ご意見も活発に出されました。主なものを紹介するとともに、次年度の課題にしたいと思います。

1) 配置・開局について

一部を除いて予定の配置場所からの移動は無かったため、配置については特に問題なく、9時前後には殆どの局が開局できた。

各地のチャンネル割り振りも各地の地区統制局の協力でスムーズにおこなわれたが、避難所担当の中で自地区のチャンネルが判らず、探していた局もあった。東部地区は432.76を使用したために問い合わせが目立った。

432.76 は連絡周波数を兼ねることにする？ 9:30頃まではチャンネル確保を兼ね交信を途切らせない？

2) 430MHz 帯での一斉通報

金杉小、高根台第一小はノーメリット、他では聞こえたようである。 本部統制局のアンテナ再検討

3) 本部統制局の状況

通信票と言っていなかった局員あり、又、通信票の本文内容に言及した指示通報があったが、訓練とはいえやや行き過ぎと感じた。 本来避難所からの情報の内容は推測不能の筈。

他地区では全て予定通り行われたが、中部地区では通信票の扱いが省略された。(地区統制局の問い合わせに対し、本部統制局から省略の指示がなされた) 原因不明

本部統制局と地区統制局間の指示連絡方法につき行き違いがあり、申し訳なく反省しております。

4) 地区統制局の状況

本部統制局の指示で、単なる連絡通報を通信票に記入した地区があった。 マニュアルの理解不足 再読
避難所担当局のコールと場所の同じ事を2度本部統制局に報告した。 確認ならば受けた側が復唱すること
毎年地区統制局の担当になる、避難所もやって見たいとの希望が出た、 説明会で地区毎に輪番制などの調整

5) 避難所(小学校)の状況

高根台第一小は10:15に訓練終了他の避難所でも同様のケースがあった。 タイムテーブルを実情に合わせる
(訓練の内容や実行は各自治会がやるので、市で作った計画は単なる目安)

数箇所の避難所で通信票を3通まとめて班長から渡された。6箇所では通信票が出されなかった。(飯山満南小では担当局が自書した) 班長が我々の訓練内容を理解していないケースが多い。(班長説明会に不参加?)
市に徹底を願う

通信票の伝達に地区統制局が待機中との理由で受け付けて貰えなかった 本部統制局からの指示で待機中であつたのと、避難場所では訓練開始早々に通信票が渡されてしまったのが原因

6) その他

班長に名札、標識が無い方が居られ判別出来ない避難場所があった。 班長に注意を願う

委嘱状、YNA会員証が無い局がある。 申し出てもらい再交付

説明会に出席出来なかった局に戸惑いや間違いが出やすい。 説明会出席率アップ、2回実施?、問い合わせ窓口の設置、説明会、訓練に参加、不参加を問わず、通信マニュアル2005の精読を願う

来年に向けて、それぞれの課題の解決と訓練の内容の改善について、防災課、YUXと話し合う。

総合防災訓練を終えて

船橋市アマチュア無線非常通信連絡会会長 山本 宗一

今日は9月1日です、82年前の今日関東大震災に見舞われたのでした。

この震災を体験しその体験を伝えてくれる方が少なくなってしまうほど、年月が経過しました。それだけに必ず大災害が襲って来ることは統計上からも確かです。

姿を現さない厄介ものに対抗するには日頃の心掛けが必要、今年も多くの会員のボランティア精神で防災訓練が無事終了し誠に同慶の至りです。

市の総合防災訓練は現在の市民参加型に替わって7回目でした、毎回我々の通信訓練は初期の目的に向かい形を変えながら進歩向上していると感じています。

残るは夜間や訓練地外で如何に対応出来るかが問われるところで、会員各位日頃の趣味の延長から自主的な通信訓練に期待しております。

今回の訓練で形式的ながら始めて行政職員からの電文を伝達する訓練が実施されました。

結果として訓練方法の設定不備や市職員の不慣れが原因で、過去の訓練が必ずしも生かされず参加各局には多大のご心労と不信を抱かしたかと猛省しております。

私が再度会長に就任した時点から市民参加型の防災訓練となり同時に地域防災無線のバックアップが我々の任務になったのです、しかし地域防災無線の訓練は未だに機器の習熟訓練の域を脱しておりません。当初から危惧していた行政の情報伝達方法に異議を唱えながらも我々の訓練は独自のメニューで並行的に継続されていたのです。

今年度の訓練で始めて行政職員の仲間入りと同時に形式的ながら本来の非常通信文の伝達訓練が実施出来たことは、責任の重さと信頼に応える気構えの大切さを感じます。

この間、訓練方法について私は立場上かなり強引な手法で干渉し実行して頂きました。

その結果、電文は通信担当者が記載する様な感覚に陥らせたことは確かです。

通信票にある通り電文は原則として発信者が記載し行政の通信担当者又は我々が伝達し情報の迅速性、正確性と証拠が確保されるのです。

この事は行政も承知しながらも放置の状態、残された私の任期内に認知願う責任があります。

我々は今回の訓練から行政の協力者として仲間入りをしたものの、本来は市民です。市民の意見を取り入れ不幸にして災害発生に市民が支え合う関係に、行政の知恵を加えた備えで、初めて“損瀬あれば憂いなし”と云えるのではないのでしょうか。

17年度行事計画予定

今年度の行事予定で現在決定しているものは次の通りです。追加、変更などは決まり次第お知らせします。

=連絡会事業 * = YNAクラブ行事

- | | | |
|-------------------------|----------------|--------------------|
| * 9月18日(日) 10:00~11:00 | 第2回ネットワーク構築テスト | ・・・移動先又は固定より |
| * 10月09日(日) 9:30~16:30 | 第1回移動運用 | 県内 or 近県 |
| * 11月20日(日) 13:30~16:30 | 第2回技術講習会 | 内容、場所 未定 |
| * 12月18日(日) 10:00~11:00 | 第3回ネットワーク構築テスト | ・・・移動先又は固定より |
| 1月??日 | 船橋市防災フェア | 日程、場所 未定 |
| * 2月19日(日) 9:30~16:30 | 第2回移動運用 | 手賀沼周辺にて芋煮会又はバーベキュー |
| * 3月26日(日) 9:30~16:30 | 第3回移動運用 | 近県 or 県内 |

第2回ネットワーク構築テストのお知らせ

本年度第2回目のネットワーク構築テストを、下記要領で実施致しますので、より多くの皆様の参加とログの提出を期待します。

毎回のことですが、ログの提出が無い方があります。構築テストの参加はログの提出が終わって終了します。

折角QSOしたなら中途半端はやめて、必ずログの提出をお願いします。

1) 参加資格：YNA会員局およびYUX会員局

- 2) 日時：平成17年09月18日(日) JST 10:00~11:00
3) 場所：自宅、近隣避難所、その他
4) 設備：固定機、ハンディ機、車載機
5) 周波数：432.76±40kHz, 1295.76MHz, (50,144については適宜設定のこと)
6) 得点： 自宅固定機からは、1交信につき1点
屋外でハンディ機からは1交信につき2点
屋外ハンディ機からの運用で発信地区および隣接地区以外の地区、(例えば東部対西部、南部対北部)ならびに市外からの会員局との1交信に対して3点
7) 部門：50,144,430,1200MHz(バンドが異なれば同一局OK)
8) ログ提出先：担当 JA1OQX 阿部幸司 宛て郵送、FAX、E-mail:ja1oqx@jarl.com
9) **ログ提出期限：平成17年10月10日 必着**
10) 交信方法：

呼び出しはCQフェアネットを前置する。

自局のコールサインはフォネティックコードを使用する

応答は信号レポート(メリット)および自局の運用地区名+町名+運用場所を告げる

*ネットワーク構築テストは、アマチュア局なら皆一度は経験がある、コンテスト形式を用いた、楽しみながら出来る交信訓練です。また自宅や担当避難所からの交信可能範囲を把握するなどの、有事に備えてのデータを得ることも目的のひとつです。ネットワーク構築テストは、唯一賞品の出るイベントですので、是非参加してみませんか。

JA1OQX

第1回移動運用のお知らせ

本年第1回目の移動運用の計画をたてました。秋晴れの空の下、野外での運用を楽しんで見ませんか？沢山の参加をお待ちしています。いい空気を吸うだけでも気分が良くなると思います。見学だけでもどうぞ・

日 時：10月09日(日) 9:00~

集合場所：JR新船橋駅 北口ロータリー近辺 9:00集合

移 動 先：市原市高滝湖周辺の丘陵

解 散：14:00現地発、帰着は17時ごろ？

* 当日雨天の場合は中止とします。

* 昼食は途中のコンビニなどで好みのものを仕入れて行きましょう。

JA6AZE

第2回技術講習会のお知らせ

本年度第2回目の技術講習会を次の通り実施します。多くの方の参加を期待します。

日 時：11月20日13:30~16:30

場 所：飯山満公民館

テーマ：LEDを活用した「イルミネーション」(クリスマス・ツリーにもなります)

費 用：500円程度の予定

持 参：ハンダ鋸、ニッパ、ルーペ、ピンセット、など

尚、昨年11月に技術講習会で製作した「マグネチック・ループアンテナ」について当日都合で参加出来なかったのもう1度やって欲しいとの希望を受けています。今回の講習会で製作頂ける様、3セット分用意しました。ご希望の方はJ L 1 G Y Bまで、お申し出下さい。 J L 1 G Y B

委嘱状更新手続きの予告

今年は非常通信協力局長の委嘱状更新の年に当たります。12月から更新手続きの期間に入りますのでそろそろ準備を御願います。

*更新のスケジュール

12月初 連絡会ニュースと同封して、更新書類と役員改選などのアンケート送付
12月末 更新書類と役員改選などのアンケート回収
1月~3月 事務局での更新手続きおよび役員会開催
4月 総会にて新委嘱状交付、役員改選

*委嘱状更新について

船橋市非常通信協力局長の委嘱期間が来年3月末で満了となります。任期は3年ですが、途中入会の方も含めて一斉に更新されます。

協力局長の委嘱は個人局を開設していることが条件となっています。

局免許の更新や変更をされた方は、事務局防災課宛てに新しい免許状の写しを送付して下さい。連絡がないと旧免許が切れた時点で、自動的に資格を失うこととなりますので充分気を付けて下さい。

*役員改選について

委嘱更新に併せて、連絡会の役員の改選も同時に行いますので、役員の立候補者を求めています。

自薦、他薦は問いません。新しい視点で会の運営をして行くには、若い方の積極的な立候補を期待します。

J K 1 P I K

ニュースあれこれ

* ハムフェア見学

8月19日、YNAのメンバー有志のグループが恒例のハムフェアの見学に出掛けました。初日であったこともあり、入り口ゲートの行列も毎年の通りで、会場内もスペースが狭くなったせいか大変な混雑で、各クラブのコマにはジャンクを漁る人が黒山の状態でした。

YNA関係ではJ A 1 B W Aさん、J J 1 G R Kさん、7 L 1 T T Hさんが出展側で頑張っておられました。参加した皆さんはそれぞれお目当ての品や、掘り出し物を手にして満足げに会場を後にしました。

* コールサイン変更

元7 N 1 E Y P 井岡さんのコールサインが変更になります。新コールはJ E 1 F U Tで、現在協力局の変更手続き準備中だそうです。

防災一口メモ

災害が起こったときに、家族がしのげる最低限の準備について

チェック 1、その場で困らないために携行しておきたいもの

身分証明書 緊急連絡先 備忘録（健康保険証、銀行口座、生命保険番号） 現金 小銭

非常時は証書、印鑑がなくても番号と身分証明証で引き出し可能な場合があるそうです。

チェック 2、非常持ち出し

懐中電灯、携帯ラジオ、予備電池

救急用品、ウエットティッシュ、軍手、タオル、シート

非常用食料、飲料水（3日分）

チェック 3、避難生活としての備蓄（普段から使いながら補充していくのがコツ）

カセットコンロと予備ボンベ、折りたたみポリタンク、ロープ、キャリー

簡易食器セット、簡易調理セット（キャンプ用品がベスト）、サバイバルナイフセット、

非常用食料、飲料水の備蓄（レトルト食品や缶詰など1個所にまとめておく）（賞味期限に注意）

タオル、軍手、マスク、下着、毛布、雨具、地図

ウエットティッシュ、トイレトペーパー、ゴミ袋、ビニール袋、食品用ラップフィルム

J S 1 I W A

編集後記

今回の防災訓練は、首都圏で頻繁に起こる地震のためか、地域住民（東部地区 七林小の場合）の関心が高く、訓練の進行は班長ではなく、自治会主導型の防災訓練でした。訓練の様子を観察していると、倒れた家具からの救出訓練、移動式ポンプ車を使った放水訓練やガールスカウトの参加など目新しいものが増えていました。

通信訓練においては、私の場合は統制局から近いため、毎回ポケットハンディ機のみで済みます。

そのため、外部アンテナ等の設置の必要性がないので、工夫するとかの目新しさに欠けますが、機動性はあります。訓練は同じ環境下でやっているともマンネリ化してしまうので、たまには担当個所を変わるのも良いですね。

J S 1 I W A

最近何となく大地震が来そうな感じがしませんか？ 7月23日の震度5弱の地震と云い、その後も各地での頻発ぶりと云い、一寸不気味な気配ですね！既に近々関東大震災級の地震が来ることは判っていて、ただ公表するとパニックになるので、政府が抑えているだけ・・・とか、まことしやかな噂も耳にするようです。

事の真偽は兎も角として、何月何日の何時何分とまでは予測出来ないのが地震だと思います。我々の出番が無いに越したことは有りませんが、矢張りそれなりの覚悟だけはしておいた方が良いでしょう。

災害通信マニュアル2005の内容の理解、特に初動の体制が大事です、市や上からの指示が無くともハンディ機でグラリネットを立ち上げ、状況判断して行動してください！フライングは結構です。ただご自身と家族の安全は最優先ですので、お忘れなく！！

J K 1 P I K

発行：船橋市アマチュア無線非常通信連絡会・船橋市アマチュア無線クラブ J J 1 Y N A

「連絡会ニュース」編集部

和文通話表

あ	か	さ	た
ア 朝日のア	カ 為替のカ	サ 桜のサ	タ 煙草のタ
イ いろはのイ	キ 切手のキ	シ 新聞のシ	チ 千鳥の子
ウ 上野のウ	ク クラブのク	ス すずめのス	ツ 鶴亀のツ
エ 英語のエ	ケ 景色のケ	セ 世界のセ	テ 手紙のテ
オ 大阪のオ	コ 子供のコ	ソ そろばんのソ	ト 東京のト
な	は	ま	や
ナ 名古屋のナ	ハ はがきのハ	マ マッチのマ	ヤ 大和のヤ
ニ 日本のニ	ヒ 飛行機のヒ	ミ 三笠のミ	ユ 弓矢のユ
ヌ 沼津のヌ	フ 富士山のフ	ム 無線のム	ヨ 吉野のヨ
ネ ねずみのネ	ヘ 平和のヘ	メ 明治のメ	
ノ 野原のノ	ホ 保険のホ	モ もみじのモ	
ら	わ	符号	符号
ラ ラジオのラ	ワ わらびのワ	° 濁点	(下向括弧
リ りんごのリ	ヰ あどのヰ	ˆ 半濁点) 上向括弧
ル るすいのル	ヱ かぎのあるヱ	— 長音	
レ れんげのレ	ヲ 尾張のヲ	、 区切点	
ロ ローマのロ	ン おしまいのン	↓ 段落	

1 数字のひと	4 数字のよん	7 数字のなな	0 数字のまる
2 数字のに	5 数字のご	8 数字のはち	
3 数字のさん	6 数字のろく	9 数字のきゅう	

欧文通話表

符号	読み	符号	読み	符号	読み
A	ALFA	J	JULIETT	S	SIERRA
B	BLAVO	K	KILO	T	TANGO
C	CHARLIE	L	LIMA	U	UNIFORM
D	DELTA	M	MIKE	V	VICTOR
E	ECHO	N	NOVEMBER	W	WHISKEY
F	FLORIDA	O	OSCAR	X	X-RAY
G	GOLF	P	PAPA	Y	YANKEE
H	HOTEL	Q	QUEBEC	Z	ZULU
I	INDIA	R	ROMEO		

符号	読み	符号	読み	符号	読み	符号	読み
1	ONE	4	FOUR	7	SEVEN	0	ZERO
2	TWO	5	FIVE	8	EIGHT		
3	THREE	6	SIX	9	NINE		

フォネティックコードとQ符号など略号の使い方(続き)

前回の、電信略号を電話通信時に使用している表の最初に「CQ」が脱落していました。ご存知のように、このCQはもともと電信通信用の略号ですが、電話通信でもごく一般的に不特定多数呼出しに使用されます。電波法的には「各局一括呼出」ですが、ハムの世界では「この電波を聞いている方は、何方でも応答してください。」の意味で「CQ」を使用します。そうでない場合は特定呼出しに「CQ 特定地域や指定メンバー」を使うわけです。つまり、「CQ 山梨県」とか「CQ JJ1YNA メンバー」、ワールドワイドでは「CQ Africa」とか「CQ Kenya」というように使用するのはです。不特定多数呼出しの「CQ」は、誰にコールされても原則として応答拒否をしてはなりません。また、特定呼出しの場合、該当しない局はコールしてはいけません。QRMなどで相手のコールサインがコピーできなかった場合は、サフィックスの1文字もしくは2文字を指定して、再度コールしてもらうようにします。

アマチュア無線の醍醐味の一つに、不特定多数の局とのQSOであると言われています。CQを出してスタンバイした時、初めての局、旧知の局や、電波伝播的に思いもよらない地域からのコールされた時の喜びは、たいへん大きいものです。CQの出し方は経験的にCQの連呼ではなく、むしろ自局のコールサインやQTHを多くした方がFBでしょう。CQは自信を持って出しましょう。オドオドしたり、オッカナビツクリの及び腰の「CQ」への応答率は良くありません。そして、堂々とハッキリ発音してQSOを楽しみましょう。そして、U/VHFのFMモードではあまり使用されなくなっている「CQ」を、「各局一括呼出」「誰か聞いてますか」ではなく、ハム局伝統の「CQ」文化を継承して行ってほしいと思っております。

各バンドの使用区分

以前はアマチュア側の自主規制でしたが、現在は電波法無線局運用規則第258条第2項(平成16年1月13日施行)に基づき主官庁の規制下にあります。昨秋に総務省がパブリックコメントを募集し、私も意見を提出しておきましたが、近々改正されるにしても現行法規制ですので、電波法やJARL会員局名録などに掲載されておりますバンド使用区分を守って運用しましょう。

このバンド使用区分というのは、この電波型式はどの周波数帯に出ることが出来るというもので、そのバンドのどの辺に多くの相手局がQRVしているか、ということではありません。例えばHFの7メガの場合、CWモードはバンドの下から上まで(7000kHz~7100kHz)何処でもQRVすることはできますが、実際にCWの局がQRVしているのはバンドエッジの7000kHz~7030kHzぐらいまでです。そして外国局は~7015kHzぐらいまで、国内局は7010kHz~7030kHzあたりに出ています。SSBモードは、7030kHz~7100kHzですが、外国局とは7070kHz~7090kHzぐらいがよく使用されます。

バンド使用区分におけるCWモードの居住権?はたいへんなもので、この理由は次のことが考えられます。その一つは電話に比べてその占有帯域が狭いこと、もう一つは、歴史的にCWによってID(コールサイン)送受信するというアマチュア無線界のルールがあったからだと思います。現状はCWを解読できない局が増えて、電話バンドにCWの混信があると、その電波の出所が判らなくて困るわけです。しかし実際は先に書きましたようにCWによるQRVは特別の場合を除きCWバンドに出ますので、あまり混乱は発生していません。

それでは、当連絡会メンバーがよくQRVしている430MHz帯の使用区分を見てみましょう。

430.00MHz	- - -	430.10MHz	CW
430.10MHz			非常通信周波数
430.10MHz	- - -	430.80MHz	CW, 狭帯域の電話、電信、画像

430.70MHz - - - 430.80MHz	狭帯域デジタル
430.80MHz - - - 431.40MHz	広帯域デジタル
431.40MHz - - - 431.90MHz	広帯域の電話、電信、画像
431.90MHz - - - 432.10MHz	EME
432.10MHz - - - 434.00MHz	広帯域の電話、電信、画像
433.00MHz	呼出周波数
433.50MHz	非常通信周波数
434.00MHz - - - 435.00MHz	レピータ
435.00MHz - - - 438.00MHz	衛星
438.00MHz - - - 439.00MHz	全電波型式(実験・研究用)
439.00MHz - - - 440.00MHz	レピータ

(注) 狭帯域：電波の占有周波数帯幅が6kHz以下。 広帯域：電波の占有周波数帯幅が6kHz以上。

国内QSO(電話)の方法

U/VHFにおけるQSOは、省略されている部分が多いのですが、QSO成立の最低条件は次のとおりです。

- (1) 双方のコールサインが正確に了解されていること。
- (2) 双方のシグナルリポートが正確に了解されていること。

これだけでは味気ないので、通常のQSOは上記に加えて次の事柄を相手に伝えます。(初QSOの場合)

QTH (送受信地の市町村名) QRA (オペレータの名前)
 使用RIG (送受信機名とアンテナなど) 現在の天候
 QSLカードの交換方法 (JARLビューロー経由かダイレクトかなど)

ファーストQSOの場合は、この程度でよいと思います。なお、国内国外を問わず必ず「初めてお会いでき、たいへん嬉しく思います」の外交挨拶を忘れないようにしましょう。QSOの終了は、双方がQRU(もうお話しする内容が無くなりました)となった時、通常の場合「CQ」を出した方、あるいは先にその周波数を先に使用していた方から「ファイナルをどうぞ」、「ファイナルにしましょう」というように「ファイナル(QSO終了)」という言葉がよく使われます。そして、コールサインや名前は、できるだけフォネテック・コードを使用し、間違いを防止したいものです。

電話QSOの場合のシグナルリポートは、HFとU/VHFでは少し異なりますが、(U/VHFの場合はメリットを使用することが多い)基本は次のとおりです。

R : (Readability) 了解度	S : (Signal Strength) 信号強度	
1 了解できない	1 微弱でかろうじて受信できる	6 適度な強さ
2 かろうじて了解できる	2 たいへん弱い	7 かなり強い
3 かなり困難だが了解できる	3 弱い	8 強い
4 実用上困難なく了解できる	4 弱いが受信容易	9 極めて強い
5 完全に了解できる	5 かなり適度な強さ	

信号強度の数字は、送る方の主観になります。これは受信機のSメータの値を読んで送る訳ですが、トランシーバのメーカー各社や、自作受信機のSメータの定数設定が異なる他、何よりもオペレーターの運用方法(ブリアンプやアッテネーター)が異なりますから、およその目安ということになります。 [第2回 完]